



子後
雜本
合冊

四
九

服部文庫
117
59
4



117
59
4

濃州倒原御陣立

羽抄書百姓騷動一件

素名表百姓騷動一件

志州騷動一件

仙臺賊船之一件

浅田兄弟敵討一件

敵抄一件 同上始末書

德方一册
卷四乃家集行一册
尔其德方一册
志王德方一册
德方一册
德方一册
德方一册
德方一册

文政二己丑年

濃州関筒原御陣御備立

赤羽

服部氏藏

御時大書

濃列國原大合戦備立

慶長五年九月十五日

慶長五年庚子年九月十五日

濃列國原大合戦備立



此書者諸軍整備之場訓并軍始終之事

書記也(大繪圖より合見を委令あり)

一 道筋赤く大筋を中仙道細く在郷道あり

一 四角之内各訓書し(宿場小利形を書し)

合之宿并に在り村也

一 青く書し(八川筋池の類あり)

一 白紙を立書き(御幕の東國方之御整之)

一赤旗を立黄乞の御幕ハ西國方ハ水勢之
右軍勢ハ姓名御備場宿之近可川合之

関ヶ原御陳評判記

家康公御本陣野上打之西海道南宮山ニ麓
配御陳之正居居御旗関ヶ原之東町
ニ于御旗本ハ大旗配リヨリ匠ニ拾取町祀の

内子陳取

御本陣配記ニ後備柳原式ヲ右柳康政有馬
荳苗於豊氏ト出テ遠江ヲ大須賀出羽守
其外駿河遠江ニ兵備

一関ヶ原西海道より南ニ方大関河関明神之
遙近福島瓦門大吏京極徳理大吏蜂須賀
阿波守孫堂仇渡与奥平美作也

一関ヶ原海道より北合川山口より八幡宮の森
近金森法印細川越中加藤左馬之助田中
兵戸女柳織田有樂斎

一合川山口より三所祀東北之山の寺丸山ニ云
新黒田甲斐与加藤左門竹中丹後与右丸
山ニ根拠あり計新より松尾山西之方筑前
中誠言秀秋之備近道法三十寺所あり

右小山之東茨谷下云所を徳川下野
井伴兵戸少補陳烈之関ヶ原之所より北より

一 牧田海道十九尾池之野より本田忠勝陳

一 野上村之東酒井左門生駒正俊寺澤

志乃与山内一豊陳

一 壺井野上之岡一ノ塚より淺野幸長陳

一 壺井所之後後生野より池田輝政陳

一 赤坂御徳山御留守居堀尾忠氏筒井定次

一 大垣之城押長雲村一柵直来陳

一 曾根村、津悦右京亮西尾豊之後方水野元高

中村或部少将松平丹後与陳

一 南宮山之押金谷川より徳永法印横井

伴織同化丸三門同孫左門市橋正綱陳

一 石田治教少補三成小國清道之方小國村の

篠尾より所より青竹之三重、柵、錯其の

鉄炮長柄之伏たり柵より前より秀頼公之

物取六拾三騎陳烈

一 小沢村より鳩津兵庫治義弘同中勢大妻義家

一天満山より西に檜津まで行長同南の方、備前
中納言言秀定此山、天満山鑿の山あり
一 藤下村より大谷大子木下山城守より田茂務り
同内記平塚園幡も同庄兵衛陳ス

藤下村の中山道湯道節園の藤川の川岸の在所に

一 山中村より入口宮より上、大谷形殿少輔吉隆四國
九州哉内より軍兵都合四万余騎より下知ス
一 松尾山に筑前中納言言秀秋陳ス
一 右雲尾より山鑿湯道より南今頃の宿より鳥辺
服板中敷太輔同治治より小川土佐守同左馬之助

朽木河内守赤座久兵衛陳ス

一 南宮山より毛利秀元吉川廣家安國寺
長束大内蔵長曾我部土佐守陳ス

此山の北より方山麓掘堀より玄劔九月十九日御本陣あり

一 大垣城本丸福原左馬之助二より丸熊谷
内蔵之助垣見和泉守木村物左衛門三之丸
高橋九郎秋月長門守相良宮内少輔都合
寺萬三千七百六拾騎並雜陳ス

一 石田三成家臣長嶋左近同新吉浦生備中
守鳩津園より魚より小園海通より左右備立

小西宇喜田右備へ前也

一 九月十五日朝小雨あり雨方深くして巳刻
斗に天も晴る福島の守り相見し
澤井左門祖父江法麻森勘由三人
三成より平より同物見し
十三郎両方途中より行進

石田三成より軍使より立り大谷大守木下山城
戸田重房吉同内記平塚因幡吉同庄之助関
と石田國海道より方り馳来り福島備より
鉄炮を打出り軍始り西國方秀家三成

義弘義家仍長平より掛り鉄炮長柄を組
く突合細川忠興井伴直政加藤喜明黒田
長政織田有樂同長孝等兵を卒し
馳合是日小國海道より左右八幡宮の後
一 海道より南東國より方藤堂佐渡守京極
高政蜂須加所波守至鎮本田忠徳宇喜田
鳩津より勢より掛り一命より先を争所
伴守貞自攻貞先進り鎧を合首を取る
依り一書首より御感状を給り猪子内近
古田大膳松越五郎左門佐久間久重内

孫六若先子進く武勇一励ス

一 海道之中筋金森法正同出雲守田中喜政
福多父子石田少西海津守喜内之勢は生
死を争てお戦此何年ノ上刻あり

御馬廻り伴舟兵庫川村助左三郎奥平藤盛
村越多康一番馬を急入討死す小坂
助六安孫子善十郎稲熊市左三郎兼松又四
郎坪内久左郎長男惣三郎次男喜盛三男
左三郎四男左郎左三郎内谷理左三郎以下各人子
孫も働り

一 去尾山金吾秀秋人数を大岡村之南に靜
り下し大谷平塚に備之右之方搦大谷
も秀秋の引心なる思ひなる岡ヶ原表の
軍よかほりて静に還る押居る秀秋の
先手一戦に理を争ひ家人田中其助を主の
布目新平其升一騎少田子之者昔年負
討死す然りし程坂中勢小川出仇も梶
河内守赤座久之助昨十四日藤堂と御味
方より糸由内通へ依る合号に旗を
揚る右四人等右證へ備は横合に討

ある藤堂山内京極も同時に討てある
山中の多勢依る敵軍は大谷吉隆接
つて切てくもより家来も三浦喜右
夫大谷が首をとり吉隆の甥も祐吉と
云汝門は其首を渡して汝は是を加賀
の包土中の細路山中表敵軍しりり
右石田小西宗喜田等の後方より
軍破す即時に最軍を

一西國方討死之衆石田武為等因記平塚
岡崎も因在る大谷吉隆甥新吉等之

一西國方面々南宮々四方伴執治々方々
落行金谷川急之徳永市橋横井等戦
て各々高名なり

一 大垣籠城の内相良宮内少輔秋月長門守
高橋九郎六輔も井伴直政の内通仕りりや
垣見和泉も熊谷内務之助森物左内傳
籠居て各自害す二三之丸焼落し
福右馬之助和之助等も渡り伴勢國朝
熊被遣り云て金谷川急す市橋
家来頼石李兵衛も云者被仰首

を削りたる

一 関ヶ原御戦場に出り東國方々人数合而
七萬五千三百斗拾余人

一 西國方々人数九萬斗千余人と云

一 嶋津義弘東方々真中伴勢路ニ落行

井伴直政本田忠徳并赤尾山々秀秋と士

率長留と戦し嶋津中勢ハ牧田

らと板と云所と終と討死と義弘ハ

例と死とのり多と良山の方より落

ゆと

一 備前中納言秀家関ヶ原より粕川と云

谷ニ落行白樫村々矢野五太と石

性大板ニ送り返り小西乃長も粕川々

谷ニ掛て山の半マテニ落行しか関ヶ原

之領主竹中丹後守ニ生捕り

一 石田治部少輔三成ハ関ヶ原より江州伴

吹山の谷ニ月草登り所ニ落行是

より川合村ニ落行て有し此所より

田中兵部少輔ヨ生捕り

東國方

京師 福島左門右史正則

池田三左門 輝政

同 備中守 長吉

京師 筒井伴賀守 定次

京極御理大夫宗政

淺野左京大夫幸長

京師 田中兵部少輔吉政

堀尾信濃守 忠氏

同 寺澤志摩守 廣高

細川越中守忠貞

山内尉馬守一豊

有馬芝菴長豊氏

藤堂仇渡守高虎

加藤左馬之助喜明

中村式部少輔一忠

蜂須賀兵部少輔至鎮

黒田甲斐守長政

生駒讃岐守正俊

本田中務太輔忠勝

尾州清洲 拾貳万石之

三州吉田 拾貳万石之

因州取島 六万七千石之

伴州上野 八万石之

信州飯田 八万石之

甲州住 二拾万石之

三州園城 拾万石之

遠州淡路 拾万石之

肥州唐津 拾貳万石之

豊後白杵 拾一万石之

遠州掛川 六万石之

遠州横副 三万石之

徳州大洲 八万石之

後州直崎 拾万石之

駿州府中 貳拾万石之

阿州徳山 拾八万石之

豊后小倉 拾貳万石之

讃州高松 拾七万石之

上総大湫 拾万石之

一 金森法印長近
 一 德永法印昌時
 一 桺 監物直末
 一 井伴兵部少輔直政
 一 榑 兵部少輔康政
 一 市橋下総守正綱
 一 加藤左工門尉貞泰
 一 奥平美作守信昌
 一 酒井左工門尉
 一 德川下野守

飛騨高山
 三万八千石
 濃分松平
 二万石
 上野高崎
 松平万石
 上野館林
 松平万石
 濃分今尾
 高不知
 濃分
 四万石

一 織田有樂斎
 一 大須加貞出羽守
 一 小出遠江守
 一 横井伊織
 一 竹中丹後守
 一 津 暲 右京亮
 一 西尾豊後守
 一 水野六左工門
 一 松平丹後守

西國方

先利宰相秀元

右拾ヶ國之守耀元之養子之

吉川元就人廣家

鳩津兵庫政義弘

鳩津中務大輔義家

備前中納言秀秋

備前中納言秀家

長曾我部宮内少輔盛親

柳川侍從宗茂

相良宮内少輔賴定

秋月長門守種宗

西撰津守行長

大谷形部少輔吉隆

平塚因幡守為廣

戸田武藏守重政

蒲生備中守氏郷

安國寺裏壇長老

垣見和泉守家純

熊谷内務之助直陣

因幡守 石見守
備前守 備後守
備中守 備前守
長門守 備前守
肥後守 備前守

大隅薩摩
日向佐土原
三万石之
備前備後備中備前
三十三万二千石之
備前備後備中備前
四十七万四千石之
去佐國高知
九万八千石之
筑後國柳川
拾万石之

肥後守水磨
二万五千石之
日向守高錫
一万石之
肥後守宗土
拾四万六千三百石之
我多守高知
拾二万石之
濃州守高井
五千石之
備前守和家
二万石之
奥河會津
高知
備前守高知
備前守高知
豊後富来
豊後安喜

石川備後守貞清

同 津田長門守信成

同 赤座久兵衛直保

昭坂中督大輔安治

福原左馬之助直高

南條中督女輔

森惣左三門

朽木河内守利綱

小川土佐守祐忠

長束大務大輔正家

高橋九郎

石田治部少輔三成

尾州大山
三万石之

山崎三牧
一万三千石之

所不知

濃州桑本
三万三千石之

豊后府内
二万石三成之智之

所不知

江州朽木
一万石之

豫州今治
七万石之

江州水口
五万石之

日向惣
五万石之

江州佐和山
二十五万石之

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 藤, 中, 大, 河, 日, 表, 長, 益, 三, 西, 一, 松, 之, 世, 子, 孫, 萬, 年, 子, 子]

享和元年^辛七月

羽州表百姓活動一件

秋之世子孫萬年子子

他領沖之東に下道押付等城道場不有役
人中人殺多也為割理害尸空以得事一高事
用影及石礫打指身未持事如備極引
下言古有之云云家后打潰乃全構拂了
後中之理也洞中六亂入以等下捕之向信等
ハ多是非手瘡乃良以云云因由果心者以瘡
不右以事疑舊外此他領之凡下海に下
函敷法乃手當人殺引等下不聖教日云

仲之弟也下也法寺也以前人殺是也打其他領
お栗平山之林廉お集上之孫也散信以遠城
下之送入等下打潰の家后之也下捕
乃之口員也事下手當尸付也別割紙之右
前之因之也生之法也之也事下教也下
石事下之事細之事也也事下之也也事
様中事也也事下之也也

也也也

秋之徳云云
若也云云

一月廿六日... 村...

上夜...

...

...

...

羽州村... 河古... ...

別

...

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

四

五福人教子

Handwritten text below the title, possibly a list of names or locations.

山形村

佐三郎

Handwritten text below the name.

花野重吉

長次郎

Handwritten text below the name.

二子重吉

長次郎

Handwritten text below the name.

Handwritten text on the left side of the right page, possibly bleed-through or a separate entry.

三河吉右衛門

中津村

貞吉

Handwritten text below the name.

中津村

長次郎

Handwritten text below the name.

吉右衛門

長次郎

中津村

Handwritten text below the name.

吉右衛門

中津村

又次

Handwritten text below the name.

一

Handwritten text on the left side of the left page, possibly bleed-through or a separate entry.

大島乃之五柳樹

鳥負

大浦村

鳥負

鳥負

鳥負

世三腕子 指肩 脊中 横一尺

指切産

佛田 山道 好時 柳樹 山 柳子

鳥柳村

鳥柳村

鳥柳村

中島村

鳥柳村

鳥柳村

文政六

柳田 山道 好時 柳樹 山 柳子

山家村

鳥柳村

鳥柳村

所生之鳥

鳥柳村

鳥柳村

世三腕子 指肩 脊中 横一尺

指切産

大島乃之五柳樹

鳥柳村

鳥柳村

鳥柳村

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

文政六癸未年

素名表百性強勁一併

八月 日

世宗神云内見真正書付中上

此在桑名表之坂中一御玉替受之世宗神大發動
お知り元桑名御殿様代請元上上指万石之庄也其
六年巳前公右之請元成お結ハ海世請上唱一口之
上お急之年上二會完お促元以教子口お来別五
午請上唱中之結受是近滞有るお務来也此今度此
玉替二付当六月海會にお成とてお極是近百理也之
金割戻之処村之并金可有之処之何ハ沙汰也及先
請元成上上根子言是近急金上上お成中上上御
殿方村之江に御付金子之度御玉替付下お成丈之
御上納之仕旨にお成有る田地家代賣代上上納不

及上御聖之御流いし一萬石代友不右借金し元立跡
 外散友西庄の御殿に御流と代友不右立と格別と
 相違いし一居るる一居るる中事と百姓中居金より元居
 代友不右立あるかくと未と散友元立いし中事と十萬石
 と百姓と散友不右立と百姓共是道とい一具
 かく中と借付し金子と右新上納お中自然交右御聖
 陣年全し後是全村に居や代友と後方とあるは中
 村在屋し帳面百姓は右揚吟味及ゆ代友と帳面
 取揚止百姓共錢五補にお成宰舎は中付上吏と百姓共
 い建し錢山と谷と右篝火明松枝焼二十騎三千人
 右集し其費赤白思し出立一巡一万騎は右見其地
 ろるし一巡五千本錢完お立跡は其き手ぬくお成り
 為しと一巡と一巡り斧取持可い山刀鎌取腰上帯
 軍陣と一巡と一巡り一万騎は右二十騎完は右
 為し一巡と一巡り一巡り大將兼別りのるより二十騎
 跡に遺し跡しと一巡り某と一巡り一巡り帯刀は
 の錢を持一万騎は右一巡り備を立お立し鉄砲五
 五巡り一巡り分中の苦敵組と七八十騎は右同振は
 右巡り一巡り苦敵手取をせむり一巡り一國志し苦
 中一巡り赤組も一万二千騎赤組を立跡は赤手取
 ありしのを一巡り七巡り後を立一巡り鉄砲十八丁
 式ハ竹槍を持せむり一巡り一巡り一巡り山の手一

城上夕日にかやき足事。水産。馬。白。紅。右。目。振。三。其。勢。九。七。
八。万。騎。お。見。ふ。は。百。紀。州。澄。動。一。岸。山。賊。二。三。千。騎。あ。い。し。
此。志。業。名。の。百。姓。の。あ。り。中。生。の。風。聞。水。産。の。軍。昨。大。好。ら。し。
相。と。け。山。賊。と。中。生。の。水。産。七。八。百。七。十。谷。より。村。
庄。や。八。中。ふ。及。打。赤。一。は。や。さ。ま。あ。水。城。内。に。完。知。
能。何。の。水。産。其。の。受。上。に。注。進。板。を。引。く。水。と。く。急。中。用。
急。水。産。百。水。玉。貯。存。子。積。の。水。城。居。弓。張。砲。揚。げ。は。不。残。切。
水。き。水。軍。急。水。産。結。雪。川。上。の。音。鳥。と。中。人。流。る。馬。け。付。付。是。
朝。の。坂。軍。届。け。や。一。市。と。作。山。柴。山。より。大。石。大。木。面。の。如。
お。し。の。百。萬。言。い。一。何。あ。乃。所。言。し。け。返。ふ。進。進。は。結。の。
史。より。町。近。り。若。林。八。音。音。集。れ。受。取。の。趣。軍。届。け。可。り。と。
此。中。史。御。土。古。記。書。は。あ。い。は。し。を。百。姓。勢。と。申。より。大。好。く。一。き。者。
五。十。騎。強。弱。取。出。英。西。の。百。姓。中。上。の。は。約。二。七。万。騎。水。産。
板。中。の。い。り。り。は。進。の。勢。進。も。余。り。ふ。中。の。水。引。退。の。水。用。意。
了。ぬ。板。中。史。の。水。産。上。の。所。居。と。程。云。を。中。谷。に。引。返。中。の。史。
より。水。引。用。人。中。ふ。及。水。産。取。出。物。取。り。進。り。引。返。一。組。く。し。
水。手。配。の。水。一。組。弓。五。十。丁。馬。組。の。の。矢。を。津。く。水。張。砲。足。
程。の。の。火。の。水。を。津。け。水。家。中。一。統。十。四。百。已。上。を。其。水。格。
或。く。を。以。板。牙。の。強。を。持。水。城。近。邊。一。組。く。水。壁。水。産。の。受。
一。眺。水。言。水。城。の。近。く。押。寄。来。り。付。抽。張。砲。以。先。揚。水。放。
水。産。の。受。張。砲。組。の。足。程。あ。る。間。の。十。五。人。斗。百。姓。勢。の。
長。月。様。子。の。五。二。い。し。の。張。砲。を。ま。く。り。あ。け。猿。々。り。張。砲。

十一年お年りこしく様子。

志刀加騷動一件

有暗齋...

志分發動

天保二年辛酉月

丁卯地石分古後之... 志分波地村仲色... 風法水翁之... 日村之者其相... 代及多羅毛... 只之市... 多作...


~~~~~

丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年...

根年... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年...

丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年... 丁巳月十日... 丁巳年...







船隻

Handwritten text in cursive script, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

杉原陸奥了船名牡鹿那石是是三和船冲船頭  
進吉更の赤之長崎儀物子艀也一同為積積在月也百  
四時比定博領平浮冲公等受之由東之右方英國船是  
艘走之氣年船中百本精舟舟舟舟英國是舟舟舟  
一時是更而或儀物一物打儀物馬船三艘人數七  
人赤之船小同儀物能得系到と赤以舟舟舟  
帆繩之五即致舟帆之能受之舟舟舟舟舟舟  
儀物切利衣舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟米指五儀舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
之船舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟



前所通一物 右高条の糸籠子 而お中書  
乃と尊の糸籠子上お係り 此籠子に糸籠子  
七月

七月

覺

- 一 磁 籠 子 一 面
- 一 組 五 六 合
- 一 回 沖
- 一 中 籠 子 具 膳 椀 一 半
- 一 帶
- 一 手 拭

右並に糸籠子に糸籠子 而持て 色糸籠子

- 一 其 物 糸 籠 子 糸 籠 子 合
- 一 紙 合 用 膳 籠 子 糸 籠 子 合
- 一 糸 籠 子 糸 籠 子 糸 籠 子
- 一 磁 籠 子 一 組
- 一 其 物 糸 籠 子 糸 籠 子 合
- 一 帶
- 一 懐 中 用 紙 糸 籠 子 糸 籠 子 合
- 一 手 拭 糸 籠 子 糸 籠 子 合

一 甘酒のり衣類の合

四十二石

一 蒲團丸合

九〇

一 懐中お宿子入糸丸合

廿四石

一 ちりめん糸巾着の包糸丸合

廿四石

一 ちりめん通し巾着の包糸

一石

一 紺糸丸合

伊藤要人

七月

一 紺糸丸合

一 紺糸丸合

一 紺糸丸合

一 紺糸丸合

小田原藩

後田屋敷討一併

文政之辰分王百江書の目録後

久保新守家来

後田兵助参子

後田洪亮

りん美子

後田の成所

丙辰十二文

右に親清田兵助参子のたに去り参年

後田の成所  
りん美子  
久保新守家来  
後田兵助参子  
後田洪亮

七月傳書成瀬書助取上りて一紙あり  
是時成瀬の書に「吉原書助成瀬の場  
下捕一紙條」あり書令取上り相違なく  
從味申入奉り「成瀬如由二月卒後  
等」あり「身并」あり「書取上り」あり  
「成瀬書卒後」あり「書」あり「上り」あり  
「成瀬」あり「書」あり「成瀬」あり「書」あり  
「成瀬」あり「書」あり「成瀬」あり「書」あり

海軍一員候上りて「成瀬」あり「書」あり  
「成瀬」あり「書」あり「成瀬」あり「書」あり  
「成瀬」あり「書」あり「成瀬」あり「書」あり  
「成瀬」あり「書」あり「成瀬」あり「書」あり

八月  
志谷川源次









右九ヶ場と一ヶ場の首書に過す信表  
其の如く大保の御事御家来之旨様上  
御事上之儀田渡迄口以候事と申  
申之去月廿七日申定上兵衛様と  
之に去冬末之御事と申口村に  
方上申之儀大保御事申之儀  
百箇と申之儀田渡迄と申之  
七ヶ場の御事御家来之旨様上

之に申之儀田渡迄と申之  
百箇と申之儀田渡迄と申之  
七ヶ場の御事御家来之旨様上  
申之去月廿七日申定上兵衛様と  
之に去冬末之御事と申口村に  
方上申之儀大保御事申之儀  
百箇と申之儀田渡迄と申之  
七ヶ場の御事御家来之旨様上









及後村良盛

新本良盛

寺次

寺次

〃

寺次

〃

久 寺

及後村良盛

寺次

寺次

〃

寺次

〃

寺次

寺次

〃

寺次  
村良盛

溪谷

山

早

清

是夜

山

新

及

大

美

九

右

所

秋





國門よりしるす事ありし通事の家  
事ありし通事の推使彼地は  
彼地よりしるす事ありし通事の家  
事ありし通事の推使彼地は  
彼地よりしるす事ありし通事の家  
事ありし通事の推使彼地は  
彼地よりしるす事ありし通事の家  
事ありし通事の推使彼地は  
彼地よりしるす事ありし通事の家

但し此書は推使の通事の家  
事ありし通事の推使彼地は  
彼地よりしるす事ありし通事の家  
事ありし通事の推使彼地は  
彼地よりしるす事ありし通事の家

伴谷部太郎  
藤村新助  
以後月日  
是物少  
是物少  
是物少



江表之廣博也人亦待之以其新之  
高之接在元之也其法度自序之

修其

右列列在

之方其孝之學也其法也其守之也  
其生之遠一從其法也其法也其  
其生之也從其法也其法也其守之也  
其法也其守之也其法也其守之也

守之勿薄我亦名之也其法也其守之也  
其法也其守之也其法也其守之也

古原

右行真也 修其

1872年 第...

...

...



口上之覚

敵打一件

去年原之年卷又其物故成滋万物討算一及以何中乾  
意後不其好情お存并計度不坐取在正以才委相  
P 今板即尋之也

以等云云 辰年八月廿九日 敵討の始りて過り御付置也  
之の事清田の以中百連小田系表出立は相別大山澤君  
迄お身又下神進去り身振は右反表は志お登同不  
迎國お身以國と有城登己ては取付中と幼年  
事は付私儀而もお身敵万物位不尋當り口上門中  
日及は討算の約束は口上人等と江戸表一橋様去之倉



從能り 變遷の流に交り人方か納言江の條に承  
何れかPの名字失念傳は 在城下の旗退瀬戸等  
馬の始まらば 居る處は 知れぬ 旗退 主の  
一帯を將繼しと云加納村の在るは 在城下の敵討  
の家と云く 中々名に娘おはし 振て 以て最  
迷惑傳は 決る 在城下の 旗退 主の  
友の 尤も 途 ぬる 却る 不道 尚去と 打  
出 首尾能ぬと云 勝た 世治 方 万助 打  
友方 には 是れ 故し 尚 三月 村松 町  
玄壇 方の 若 志 寺 にお 海 月 入 彦 彦 彦  
近 山 車 取 若 敵 し 手 掛 せ う ぬ ぬ ぬ 是 入 彦 彦 彦 處 三 月  
中 毎 日 万 助 女 房 物 束 代 友 丁 町 人 丑 娘 小 兒 と 召 連  
在 城 下 實 方 物 行 傳 存 在 代 位 不 ぬ 傳 文 傳  
川 邊 江 下 乃 是 危 松 乃 命 中 老 方 以 前 行 行 一 向  
存 在 手 掛 せ ぬ 是 尚 去 正 月 春 毎 儀 内 在 城 下 寸 寸  
房 所 在 乃 万 助 存 在 中 由 古 寄 煩 記 在 城 下 寸 寸 中 寸  
新 妻 友 子 乃 種 子 存 在 乃 彼 地 在 城 下 寸 寸 寸 寸 寸  
牧 方 同 役 乃 事 奇 乃 急 小 田 原 表 在 城 下 度 乃 呼 汝 主  
以 文 尚 四 月 乃 乃 富 士 市 師 中 村 伊 織 中 老 以 乃 寄 母 乃  
P 越 乃 官 川 實 乃 傳 傳 乃 吉 乃 乃 老 先 年 隱 居 乃 海 川















口しし是

去ん辰よのま又教成能万物討果常空の味も教之は  
不し行中お尋罪は多本望お違ひ以才委相しん  
所尋りたか

叶成見候田沼意下しん色口及仕小田系表出是仁仁

用事お尋望己の了場後為候山世活三本成居山同

人渡ら相所執多仕候一果敢し云事下仕候去未土前

持三居候三若意中今お海山嘴子然候候し候し一

刀流地台仕居上是亦異て左修行出来兼候所候

て列し飛出少中新高高三月中の物云富士山師中村

伊織し中老親故大は修理在候も右勤務在加茂静

了事牧方し中老と若石之了振心他三万市花振お勤

之山縁之山強金中約束しん若意取りて在在沼田案

此檢制の山師範有右何し修行候内宜し大聖有し

美山子切高の世話し及下山回系お知山本法非説仙位

心仕申之金畏候位心持し精を亦仕在互見欲我中

上右通万物水及地台形中由自恵候傳在候中しん不

山端子新之屋振十古教之万市花振山山無合山左

乃恵山向及下候高振山也山若山山山山山山山山

山教示下上山山山山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山

何れに六包のりしとて是れ又是れと封金、改定は有る  
辭迄下上の上右の目方と左の目方と  
すより見渡花方の紙紙十八の山南地出に仕より討  
果は後より外評領物とて正に沈花の中を研ねる  
紙の底に沈み入るか玉極難に仕合ふや大雨降るに  
付故にしるす

六月十日

浅田の山中





